



2023 情報処理安全確保支援士 「専門知識＋午後問題」の重点対策

令和 5 年度（2023 年度）秋期試験を受験される方へ

- 1 情報処理安全確保支援士試験における出題構成等の変更について
- 2 著者 三好康之先生からのメッセージ

1 情報処理安全確保支援士試験における出題構成等の変更について

2022年12月20日、独立行政法人 情報処理推進機構（IPA）は、情報処理安全確保支援士試験（SC）について次のような変更を発表しました。

情報処理安全確保支援士試験（SC）の変更について

セキュリティ関連業務、及びそのタスクは、経営層及び戦略マネジメント層寄りのものから実務者・技術者層寄りのものまで、多岐にわたってきています。近年は、DXの取組を通じたクラウド化、DevSecOps等の動きの中、各分野の境界は曖昧化の傾向にあります。

SC受験者が従事するセキュリティ関連業務の多様性の高まり、境界の曖昧化の傾向等を踏まえ、午後Ⅰ試験と午後Ⅱ試験を統合して問題選択の幅と時間配分の自由度を拡大しました。また、午後Ⅰ試験と午後Ⅱ試験の統合によって、試験時間が短くなりSCの受験しやすさが高まりました。試験時間を短縮することによって受験のしやすさを高め、サイバーセキュリティの確保を担う情報処理安全確保支援士の育成・確保を一層推進していきます。

具体的な変更内容は次のとおりです。

(1) 午後Ⅰ試験と午後Ⅱ試験を午後試験に統合

変更前		変更後	
午後Ⅰ	試験時間：90分 出題形式：記述式 出題数：3問 解答数：2問	午後	試験時間： <u>150分</u> 出題形式：記述式 出題数： <u>4問</u> 解答数： <u>2問</u>
午後Ⅱ	試験時間：120分 出題形式：記述式 出題数：2問 解答数：1問		

今回のSCの改訂は、出題構成を変更するもので、試験で問う知識・技能の範囲そのものに変更はありません。

適用時期

令和5年度秋期試験（2023年10月）から

<https://www.ipa.go.jp/news/2022/shiken/henkou20221220.html> から抜粋

アイテックは、“2023 情報処理安全確保支援士「専門知識＋午後問題」の重点対策”を2022年10月に刊行しました。このため、本書に掲載されている出題構成は変更前のものであり、適用される試験は令和5年度春期までとなります。令和5年度秋期からは変更後の出題構成で試験が実施されます。

本書の18頁、19頁に掲載されている変更前の出題構成を、変更後の出題構成に更新して次に示します。

変更後の出題構成

2-5 試験時間、出題形式、出題数、解答数

試験時間、出題形式、出題数、解答数などは次のとおりです。

情報処理安全確保支援士試験の午前Ⅰでは、情報処理技術者試験の高度試験と共通の問題が出題されます。

午前Ⅰ 9:30～10:20 (50分)	午前Ⅱ 10:50～11:30 (40分)	午後 12:30～15:00 (150分)
共通問題 多肢選択式 (四肢択一) 30問出題/30問解答	多肢選択式 (四肢択一) 25問出題/25問解答	記述式 4問出題/2問解答

図表 1-1-6 試験時間、出題形式、出題数、解答数

2-6 採点方式・配点・合格基準

- (1) 情報処理安全確保支援士試験の各時間区分（午前Ⅰ，午前Ⅱ，**午後**の試験）の採点方式は、素点方式を採用します。
- (2) 情報処理安全確保支援士試験の合格基準は、各時間区分の得点が全て基準点以上の場合に合格とします。
- (3) 配点（満点）及び基準点は次のとおりです。なお、試験結果に問題の難易差が認められた場合には、基準点の変更を行うことがあります。

試験区分	時間区分	配点	基準点
情報処理安全確保支援士試験	午前Ⅰ	100点満点	60点
	午前Ⅱ	100点満点	60点
	午後	100点満点	60点

図表 1-1-7 配点及び基準点

(4) 問題別配点割合は、次のとおりです。

試験区分	午前Ⅰ			午前Ⅱ			午後		
	問番号	解答数	配点割合	問番号	解答数	配点割合	問番号	解答数	配点割合
情報処理 安全確保支援士 試験	1～30	30	各 3.4 点 (*)	1～25	25	各 4 点	1～4	2	各50点

(*) 得点の上限は 100 点とする。

図表 1-1-8 問題別配点割合

(5) 次のとおり「多段階選抜方式」を採用します。

- ・午前Ⅰ試験の得点が基準点に達しない場合には、午前Ⅱ・午後試験の採点が行われずに不合格とされます。
- ・午前Ⅱ試験の得点が基準点に達しない場合には、午後試験の採点が行われずに不合格とされます。

今後の学習について

IPA の発表では「出題構成を変更するもので、試験で問う知識・技能の範囲そのものに変更はありません」とされているため、アイテックでは、令和 5 年度秋期試験を受験される方にも“2023 情報処理安全確保支援士「専門知識＋午後問題」の重点対策”を十分に活用し、学習を続けていただくことで合格につながるものと考えております。

2 著者 三好康之先生からのメッセージ

今回の変更で、ひょっとすると不安に思われている方がいらっしゃるかもしれません。特に試験対策をしてきた人は、これまでの学習が無駄になるのではないかと。でも、心配しなくても大丈夫だと思います。

まず、今回の変更は、あくまでも出題構成を変更するだけのものだからです。IPA が公表している通り、試験で問う知識・技能の範囲そのものに変更はありません。仮に、これが IT ストラテジストやプロジェクトマネージャ試験のように、時間内に速く解くことが合否を分ける試験区分だったら、多少は影響があったと思います（それでも“多少”ですが）。「速く解くためのテクニック」が、従来通りの方法でいいのかを考えなければならないからです。しかし、情報処理安全確保支援士試験の場合は違います。合否を分けるのは、速く解くためのテクニックの有無ではなく、「合格に必要な知識があるかどうか」です。したがって、学習方法は変わりません。

今回の変更で、問題文が何ページぐらいになるのか、いくつぐらいの設問が用意されているのか、個々の配点がどれぐらいになるのかなど、まだわからないことが多いのですが、合格するために必要な学習は変わりません。まずは、知識を体系化して覚えていくことです。一つの用語からいくつかのワードを連想できるようにしておきましょう。そしてそれを、過去問題を通じて一連の流れの中でアウトプットできるようにしていけば万全です。問題の構成（分量等）は変わりますが、学習ツールの一つとして過去問題を活用するスタイルは有効だと思います。それは、これまで何度も行われてきた大小の“試験制度の変更”の時にわかっていることです。試験時間が変わり、4 問中 2 問を 150 分で解答しなければならないようになりますが、過去問題を時間内に解く練習をしておけば（午後Ⅰなら 45 分で 1 問、午後Ⅱなら 120 分で 1 問）、それよりも時間的に厳しくなることはないはず。IPA も、より速く解けることを望んでいるわけではありませんからね。

逆に筆者は、この変更はチャンスだと考えています。IPA の今回の変更の目的は、情報処理安全確保支援士の登録人数を増やすことですよね。試験時間を短縮するのも、受験者の負担を軽くして受験者数を増やすことが目的です。難易度を上げて“落とす”ことが今回の変更の狙いではありません。したがって、IPA が望む支援士として必要十分な知識を身に着けて、合格を狙いましょう。やるべきことは、これまでもこれからも同じです。